

令和5年生駒市教育委員会第1回定例会会議録

1 日 時 令和5年1月23日(月) 午後1時30分～午後3時14分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第1号 令和4年生駒市議会第7回(12月)定例会提出議案の結果について
- (2) 議案第1号 生駒市社会教育委員の委嘱について
- (3) 議案第2号 生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
- (4) 議案第3号 令和5年度生駒市学校教育の目標について
- (5) 議案第4号 生駒市立小学校及び中学校教職員の管理職人事について
- (6) 令和4年議案第25号 生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	坂 谷 操	教育総務課長	山 本 英 樹
教育総務課課長	松 本 芳 樹	教育指導課長	前 田 伸 行
幼保こども園課長	松 田 悟	幼保こども園課指導主事	湯 川 祐美子
こども総務課長	武 元 一 真	子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂
生涯学習課長	清 水 紀 子	図書館長	西 野 貴 子
図書館課課長	錦 好 見	スポーツ振興課長	西 政 仁
教育総務課課長補佐	石 田 昌 代	教育指導課課長補佐	花 山 浩 一
教育政策室長	日 高 興 人	幼保こども園課課長補佐	福 山 清 美
こどもサポートセンター所長	若 狹 美登里	教育総務課(書記)	佐 竹 裕 介
教育総務課(書記)	吉 川 優 香		

6 傍聴者 4名

午後1時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

○日程第3 報告第1号 令和4年生駒市議会第7回（12月）定例会提出議案の結果について

・令和4年生駒市議会第7回（12月）定例会提出議案の結果について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p1～2>

（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 議案第1号 生駒市社会教育委員の委嘱について

・生駒市社会教育委員の委嘱について、清水生涯学習課長から説明

<参照：議案書p3、資料1>

（質疑）なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第5 議案第2号 生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について

・生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について、西スポーツ振興課長から説明

<参照：議案書p4、資料2>

（質疑）なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第6 議案第3号 令和5年度生駒市学校教育の目標について

・令和5年度生駒市学校教育の目標について、前田教育指導課長から説明

<参照：議案書p5、別冊1、資料3、資料4>

（質疑）

飯島委員：小学校・中学校ともに具体的な取組④の赤字部分について、ICT機器が配備され使いこなしていく上で、非常に重要な部分であるので、強調することは良いと思うが、ここでの「デジタル」について、デジタルコンテンツかデジタル機器か、様々な解釈が生じてしまうのではないか。上に記載

があるような、「ICT機器の利用の仕方」や「ICT機器の取り扱いに関する正しい理解を持って」というような、具体的な書き方に調整していただければと思う。

花山補佐：ここでの「デジタル」というのは、全般的な意味も踏まえて、「コンピューターで扱える情報」と捉えている。表現の仕方が非常に難しいと感じている。良い表現があればご意見いただきたい。

坪井委員：私もこの部分に違和感がある。デジタルを英語で訳すと整数ということになり、デジタル社会やデジタル活用等の使い方であれば理解できる気もする。ここでは、インターネットやその他の高度情報通信ネットワークや電磁的記録を全てデジタルとして表現しているとのことだが、一般的にはあまり浸透していないようだ。

原井教育長：この文言については再考するので、事務局に預けていただき、何か意見があれば後日ご提案いただきたい。

中川委員：幼稚園・こども園の具体的な取組⑥で「学びの芽生えの小学校における自覚的な学びへとつなげる取組を推進する。」とあるが、一般の方も見るものなので、具体的な取り組みの一例を入れてはどうか。また、先ほどのデジタルの件について、人権尊重と記載があるので、主にネット上のいじめ等についての内容であると認識している。私もデジタルとは、デジタル情報の活用の問題点や、正しい使用の理解などを身につけるという意味で認識しているが、事務局の方で良い表現を考えてもらえればと思う。

原井教育長：1点目の具体的な事例を入れるというのは、具体的な取組の中に例を入れるということか。考えている具体的な事例とは例えばどういうことか。

中川委員：「学びの芽生え」や「小学校における自覚的な学び」がどういうことを指しているのか少し分かりにくい。それぞれの違いが分かるような例を1つずつ入れられれば良いと思う。一般の方には何を指しているのか分かりにくいと思う。

原井教育長：「学びの芽生え」は、よく使われる言葉だと思っていたが、吉尾委員の意見はどうか。

吉尾委員：文部科学省からの指導等で、「学びの芽生え」や「自覚的な学び」がクローズアップされている。それを意識してこの文言を入れているのかと思う。⑥の項目で最も言いたいのは、保幼小接続カリキュラムを進めていこうということであると思うが、確かに保護者からすると、分かりにくい表現であるかもしれない。

中川委員：一般的に幼稚園や保育園では、遊びの中で社会のルールを身につけると共に、小学校における教科等の目標を目指した補強的な学習への接続を考えながら行うというような内容かと認識しているが、一般の方には分かりにくいと思うので、一言があれば分かりやすいと思った。

原井教育長：遊びを学びに繋ぐという言葉は以前は使っていたが、現在はその言葉が「学びの芽生え」となっている。体験を通して好奇心や意欲を学びに繋げていくことが保幼少接続プログラムであり、それを踏まえて作られたカリキュラムをさらに活用していこうということであるが、「学校教育の目標」とは、限られた字数の中で簡潔にまとめており、目標を集約したものなので、具体的な事例を入れることは難しいかと思う。具体的な意見があれば、事務局の参考にするので聞かせてほしい。

レイノルズ委員：今回事務局から改定案を出していただいた部分ではないが、一つ視点を増やせないかと思っている。「学校教育の目標」には、子どもたちにどういった学びを実現したいかということはしっかりと書かれているが、それを実現するためには、教職員にとって働きやすい環境かという課題があると思う。このことは大綱を改定する際に提案しようと考えていたが、大綱の改定を待たずに、そういった視点を少し加えられないかと思った。具体的には、3ページ「安全で信頼される園・学校づくりの重点課題」の3項目「教職員の教育力向上のための研修の実施」や、1項目「社会に開かれた学校づくり」のあたりで「業務負担の軽減に関する環境作り」や「働き方改革」等の文言を加え、「学びを支える先生方の今の実態の負担は十分理解している。」「その部分の改革が必要だということを意識している。」ということを示したい。もしその視点を加えることに問題がなければ、具体的な文言を考えたいと思うがいかがか。

原井教育長：1ページ目の一番下に「意欲のある教職員や学校の取組を支援する仕組みづくり」を土台として記載しており、さらにその上に「生駒市の学校教育を支える教職員一人一人の指導力の向上」という部分で、授業研究やOJT、地域との連携を記載している。レイノルズ委員の意見は、この辺りの内容を3ページ「安全で信頼される学校づくりの重点課題」の中で一つの項目として表現できないかという解釈で良いか。

レイノルズ委員：その通りだ。しかし今の話を聞いて、1ページ目の「指導力の向上」は、非常に素晴らしいことではあるが、その前に業務負担の軽減が必要になるのではないか。その部分の表現も少し言い換えた方が良いのかもしれない。現状として先生方の業務が多い中で、さらに「指導力の向上」を求められると、負担が増すことになってしまうのではないか。古島委員の意見はどうか。

古島委員：具体的にどのような言葉を入れたら良いのかは分からないが、現在生駒市でも校務支援システムや、アンケートでGoogleフォームを利用する等、様々なことでICT化が進んでいる。先生方の業務負担は今まで手作業でやっていたことから考えると、軽減しているのではないか。しかし、ICT化で削減できた時間があってもその時間にさらに別の業務が入ってしまうのが現状であると思う。これは先生方自身の働き方改革にもなって

くるかもしれないが、生駒市はICT化を進めているので、ICTの活用を意識した働き方改革というような内容を1ページのどこかに盛り込むことができたなら良いのではないかと思う。

原井教育長：1ページの一番下の黄色の部分にある「実現に向けた教育環境の整備」や「地域学校協働活動の推進」が先生方の支援になる働き方改革に繋がっていくのではないかと思う。この内容を3ページ「安全で信頼される園・学校づくりの重点課題」の中に入れていくということで、次回案を提出できればと思う。

伊藤委員：最近気になったことで、実技教科か副教科か、言葉が正確に分からないが、家庭科や技術、保健等の教科について、きちんと習うのは中学校までであることが多く、高校に上がると学習の機会が少なくなる教科もあると思う。しかし、これらの教科はこれから大人になって生き抜いていくために必要な、生活能力の基礎となる内容が多い。これらの教科が実際にそのように扱われているのか、今のところ少し不安に思う。これはデジタル教育にも関わると思うが、健康に関する知識や、消費社会の中での有意義な生活の送り方、労働法や消費者法をどのようにして自分の味方にするのか、これらを、義務教育を終えるまでに副教科を中心に身につけてほしい。これらの学びが一番重要である、「21世紀を生き抜く力を持った子ども」や「生きて働く知識技能の習得の徹底」の基本になるのではないか。幼稚園には「食育活動」や「防災安全教育」、「体力向上」という言葉が含まれているが、小学校と中学校にはそれに相当するような言葉が見つからない。小学校・中学校の具体的な取組⑤に「キャリア教育、特別活動、各種事業」とあるが、この項目は自尊感情の醸成が中心であって、生活力の向上ではないかと思うが、そのような解釈で良いか。

原井教育長：キャリア教育とは、将来のための生きる力であるので、実技教科での学びも含まれている。おっしゃるように家庭科の中でのキャリア教育は非常に大きな意味合いがある。それは単に気持ちを育てるだけではなく、技能・スキルを育てるという部分もキャリア教育には含まれている。

伊藤委員：保健体育や技術における授業やテストから、生活力全般を高めていくことに注力してほしいと思うが、そのような表現を⑤の中で深めていただくことは可能か。

原井教育長：それは伊藤委員の思いであり、私自身も今の話だけだと判定できないが、そのような実技教科での学びも含めてキャリア教育と記載している。実技教科こそが、将来の自立を実感できる体験や学びにあたるので、これ以上にどのような言葉を入れるのか難しいと思う。

伊藤委員：キャリア教育という言葉は経済活動のような内容が中心になる言葉だと思う。このような労働者であるキャリアの部分に対して、消費者である部分があり、消費者としてどのように自立して自分を守っていくのか、あるい

は政治的意味での主権者としての民主主義の国家で、どのように自分がよりよい社会をつくることに参加していくのかといった、もう少し幅広い意味での副教科、そういった自分の生活全般をより健全で豊かなものにするための教育という意味ではキャリア教育は少し意味合いが違うと感じる。私としてはキャリアという言葉は当然仕事のキャリアという言葉に通じる言葉なので、そのように捉えてしまう。

原井教育長：一般に使うキャリア教育という言葉と学校教育の中でのキャリア教育は少し違っており、もっと広い意味を持つ。今まきにおしゃっていただいている技能面も含め、実技教科を通して習得するのは全てキャリア教育である。

前田課長：キャリア教育とは、ここにも書いてあるように『将来の「自立」』ということを考えて生きていく力をつけるというような広い意味で捉えられる。また、今は副教科という言葉は使わない。全て大事な教科なので実技教科という表現になる。小学校・中学校の重点課題の①「主体的・対話的で深い学び」にて、家庭科や保健体育等の実技教科だけではなく、国語や数学等も含め、どの教科においても実技体験を含めた体験学習をしていかなければいけないとすでに記載している。小学校・中学校の具体的な取組①にタブレットを強調しているが、これは「協働的な学び」や「個別最適な学び」の実現に繋がっていくかと思う。表現的なところで、「生きていく力」等の言葉がどこかに入ればより良いかとは思う。そのことについて意見があればお願いしたい。

原井教育長：キャリア教育の年間計画を各学校で作成しており、そこには全ての教科が含まれている。「キャリアを伸ばす」等の社会一般で使うキャリアと、学校で使われるキャリア教育では、少し意味合いが違う。子どもたちの本当に生きる力ということで全教科、全ての学習に当たってキャリア教育と位置付けられている。そこには当然体育も家庭科も音楽もすべて含まれる。

伊藤委員：教育委員会のお考えは理解できたが、子どもから授業の様子を聞いている中で、実態として子どもたちがそのように受け止めているのか心配に感じている。教える時の体系立てや伝え方で工夫していただければ良いのかもしれないが、中学校だとどうしてもテストの対策としてしか子どもたちが受け止めてないように感じる。そのため、生きていく上で重要な科目であるというメッセージが伝わりきれていないような気がしていた。その辺の説明が、私だけでは理解が及ばず、あまり有益な提案ができないような気がするが、生活力の向上が生き抜く力のベースであるということが共有できるような文言が出てくると良いと思った次第だ。

原井教育長：保護者の視点で、こういう言葉をここに入れたらもう少し明確になるのではないかな等の提案があれば教えていただきたい。

坪井委員：小学校・中学校の具体的な取組①に「1人1台配備したタブレット端末など」という言葉が引き続き入っているが、配備から数年経っているので、単に「タブレット端末など」では駄目か。

原井教育長：これに関し事務局の意見はあるか。

前田課長：ただ単に「タブレット端末」を使って授業するのではなく、1人1台で1人1人が活用できるということを、先生方にはより意識し、より徹底していただきたいと思っている。

原井教育長：それを踏まえた上で坪井委員は、あえてその言葉を入れなくても「タブレット端末」ということ自体が「1人1台配備したタブレット端末」という意味になるのではないかとおっしゃっているかと思う。具体的な取組③にあるように、「タブレット端末を活用した個別学習」というところと同じような形で、「1人1台の」という形容詞を抜いてはどうかということだ。

前田課長：形容詞を抜くほど徹底されているのかという思いがある。「1人1台配備」という認識が当たり前に広まっていれば大丈夫だと思うが、まだ少し不安がある。

坪井委員：生駒市の子どもたちだけが「1人1台配備したタブレット端末」を持っているのであれば、ここを強調する必要があると思うが、すでに日本全国で充足している。また、私が見ている限りでは、子どもたちも自分のタブレットを上手く活用しているように見えるので、今更取り立てて言うことではないという考えだ。

原井教育長：「1人1台配備した」は削除ということをお願いする。

吉尾委員：一つ確認をさせてもらいたい。「生駒を愛し」について、生駒を愛することで、生駒を大事に、また生駒の出身であることを誇りに思ってもらい、もし将来生駒を出ることになっても、あるいはまた戻ってきても、何かあれば生駒の力になりたいと思ってもらえるようにという思いで、下の3つの力が身に付くよう育てたいという意味で解釈して良いか。また、小学校・中学校の重点課題と具体的な取組について、①から⑥までがほぼ同じ表現であるが、これは小中で一貫した教育を目指しているからか。もし、これを見て小学生・中学生でのそれぞれの子どもたちの育ちを考えられていないと誤解されたら非常に残念だ。統一されたものだというのであればどのように認識したいと思っている。確認させていただきたい。

前田課長：「生駒を愛し・・・」というところについては、重点目標を達成していく中でこの3つの目標を達成していけば、ふるさと生駒を愛する子どもたちを育てることができることを目指している。そして最終的には「生駒を愛し、21世紀を生き抜く力をつけた、やさしくたくましい子どもの育成」に繋がる。生駒を愛するということは、生駒に戻ってくることもあるが、それぞれが自立してどんなところへ行っても自分たちの生駒というふ

るさを誇りに思えるような子どもたちを最終的には育成していけると考えている。

原井教育長：小中学校の取り組みがほとんど同じなのではないかという件について、③や⑦、⑧については、少しずつ中身が変わっており、全く同じわけではない。ただそれ以外の部分は、吉尾委員がおっしゃったように9年間を見通した教育という理由から、ほとんど文言は同じである。発達段階・成長過程において具体的な取り組みは当然違うが、目指すところは同じだという考え方だ。

吉尾委員：大変よく分かった。そのことを現場にも伝えていっていただきたい。単に子どもが「生駒が好き」で終わるのではなく、中学校までの教育を受けた生駒を誇りに思い、生駒から羽ばたいていってもらうために、こういう目標を立てているということをしっかり伝えていただきたい。

原井教育長：これが決定すれば、校長会等で伝達することになる。

神澤委員：重点目標の「多様性を認める・・・」の2つ目に、「自他ともに敬愛する心を育みます」とあるが、一般的に敬愛という言葉は他人に対して使用する言葉のため、「自分を敬愛する」という文言は変ではないか。「敬」を取って「自他ともに愛する」ではどうか。

原井教育長：違和感があるということか。使い方をきちんと確認して次回までに検討したい。

審議結果 【継続審議】

○日程第7 令和4年議案第25号 生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について

- ・生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について、日高教育政策室長から説明
<参照：議案書p7～11>
(質疑)

伊藤委員：議案書11ページ教育の方向性の(1)の3行目について、「第3次生駒市教育大綱の策定も見据えて」を加えると市長がおっしゃっていた通りの具体的な文章になると思っていたが、「施設の方向性」の(1)の2行目に「第3次生駒市教育大綱を具現化するために」を入れるとなると、まだ策定されていないものの中身について予断してしまうことになり、時系列的な矛盾が出てしまう懸念がある。例えば、第3次生駒市教育大綱ということには触れずに、3行目に施設一体型の学校施設を加えるだけにした方が良いのではないか。

原井教育長：生駒市教育大綱については、単に今議論している生駒南小学校・生駒南中学校だけのことではなく、生駒市全体の教育に関わることである。生駒南小学校・生駒南中学校はその理念を具現化していくための施設となる。そ

のため、(2)の項目のメインは「子どもの成長発達にとって最適な教育環境を提供し」という部分であり、それに加えて、そのことが第3次生駒市教育大綱を具現化するものであるという並列のような形で私たちは考えたのだがどうか。

飯島委員：第3次教育大綱がまだ固まっていない時点で、「具現化する」というと、既に出来上がっているように誤解されかねないと思ってしまう。教育大綱にある理念を具現化するための施設一体型の学校であるということアピールすることも良いとは思いますが、例えば「生駒市教育大綱にある理念を具現化するために」というような形にすれば、第3次教育大綱と並行して検討するという事も含まれるのではないかと。

原井教育長：訂正部分をもう一度復唱する。「最適な教育環境を提供し、生駒市教育大綱の理念を具現化するために」とする。ここでの「生駒市教育大綱」には、第2次も第3次も含まれるという考え方ということで良いかと。

吉尾委員：生駒市教育大綱というのは、全市民が中身を理解して認めていることであるので、「印籠」ではないが、この方向性で行こうと思っているということをお話しておくのは大事なことと思っているので、飯島委員と同意見だ。

原井教育長：それでは、「第3次」を消して「生駒市教育大綱の理念」という言葉に変えることにする。

イノベ委員：今の教育大綱の表現について私も飯島委員の意見に賛成だ。また、施設一体型について、急な変更にも関わらず、柔軟に対応していただきありがたい。この一言が加わったことで、より明確な方向性を示して進んでいけると思っている。しかし、施設一体型にすることに対して、不安も感じている地域の方や関係者の方々もいると思う。中学生と小学生が同じ体育館を使うことで、時間の調整や安全性はどうなるのか等の心配や不安はまだ残っていると思うので、施設一体型を前提に、それらの課題をどう解決できるかを同時進行で進めていかなければいけないということを確認の上、この方向性で進めるということが良いかと思う。

原井教育長：この「1教育の方向性」の(2)に記載しているように、名称は未定だが「方向性に関する検討委員会」を今後設置する。それ以外の地域や保護者の方々への説明会も丁寧に進めていく。それは前回の会議のときも地域や保護者の方との会議のときにも確認したので、検討・説明は丁寧にしていこうということで、確認していきたい。

審議結果 【修正のうえ可決】

○日程第8 その他

- ・令和5年2月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明(質疑)なし

・新型コロナウイルス感染症発生状況（令和4年度2学期分）について、奥田教育こども部長から説明

（質疑）

神澤委員：マスクの今後の扱いについて、文科省が何か方針を出すというような話も出ているが、生駒市教育委員会としてはどのように考えているのか。今までは、体育の時間や登下校時は外すと決まっていたが、今後はどうか。

坂谷次長：マスクについては、これまでも文科省からの通知に基づいて実施をしていた。近く5類になるということなので、その時に合わせてマスクについても、表明がされるのではないかと考えている。まずはそれに準じて対応していきたい。

神澤委員：文科省からの通知が出てからということにはなるかと思うが、いつ頃になるのか分かり次第教えてほしい。特に中高では、子どもたちも先生方も気にしている方が多い。

坪井委員：前回も確認したが、「すぐーる」というシステムがすごく良く、学校の連絡手段としては非常に有効だと思っている。「すぐーる」の運営や使用に関しては学校に任せていると聞いたが、欠席連絡のシステムを日常的に使っている学校はどの程度か。

山本課長：「すぐーる」は11月から運用しているが、年度末にアンケートを取る予定をしている。その集計を持って今後の運用方法を決めたい。現在、何校が欠席連絡で利用しているかは把握していない。ただ、小学校では比較的欠席連絡に利用しているが、中学校では利用していないところが多いと聞いている。理由としては、中学生になると本人が勝手に連絡を入れてしまう懸念があり、生徒指導上電話で受け付けたい学校が多いと聞いている。そのようなことも踏まえながら、今後の運用をどうしていくか、教育委員会として決めていきたいと考えている。

坪井委員：保護者として、これまでは欠席連絡で先生の手を煩わせることが心苦しかったが、ハードルが低くなったという点と、学校だよりや学級閉鎖の連絡等の学校からの連絡も非常に早くなったという点が良い。メールよりも迅速であるし、恐らく開封率もいいのではないか。学校評価アンケート等もできるし、非常に使いやすい。学校の先生の負担も軽くなるのでぜひ押し進めてほしい。

原井教育長：使い方について提案や意見があれば、情報をもらいながら進めていきたい。

○日程第9 議案第4号 生駒市立小学校及び中学校教職員の管理職人事について

・生駒市立小学校及び中学校教職員の管理職人事について、原井教育長から説明

<参照：別紙（非公開）>

◀ 個人情報を含むため、質疑内容は非公開 ▶

審議結果 【原案のとおり可決】

○閉会宣告

午後3時14分 閉会